

2014年度第1回日本学連幹事会議事録

開催日 2014年(平成26年)5月31日(土)
会場 前橋テルサ(群馬県前橋市)

【議題】

1. 自己紹介
2. 後援申請
3. 事務局会計について
4. 会計について
5. 中九州四国学連について
6. JOA加盟について
7. 理事改選について
8. インカレミドルの方式について
9. 学連登録資格について
10. 地図会計について
11. 各部局活動報告
12. インカレスプリントについて
13. 技術委員会報告
14. 理事会報告(省略)
15. 各地区学連活動報告
16. 次回幹事会について

【出席者】(敬称略)

氏名	役職	学校名
山川克則	副会長	東京大学卒
齋藤翔太	理事	一橋大学卒
大西康平	技術委員会委員長(途中から出席)	京都大学卒
宇井賢	幹事長	京都大学
佐藤大樹	副幹事長	東京工業大学
平野大輔	事業部長	名古屋大学
高橋秀明	広報部長	金沢大学
新粥文哉	事務局長	千葉大学
杉村俊輔	普及部長	東北大学
橋場良太	渉外部長	東北大学
山田陽子	2013年度会計	早稲田大学
五味あずさ	会計監査	金沢大学
野本圭介	会計監査	筑波大学
大川拓哉	北東学連幹事長	東北大学
久須美裕	北信越学連幹事長	新潟大学
村瀬貴紀	関東学連幹事長	筑波大学
今井祐太	東海学連幹事長	名古屋大学
糸井川壮大	関西学連幹事長	京都大学

議事録作成: 高橋 秀明(広報部長・金沢大)

2014年度第1回日本学連幹事会議事録

発言者 (敬称略)	発言内容など
	幹事会開始:13時29分
	1.自己紹介 今回の幹事会の出席者の自己紹介を行った。(参加者については表紙を参照)
	2.後援申請
	後援申請のあった、3件の大会について、全会一致で後援を承認した。
新粥	(1)第8回名大相大オリエンテーリング大会 開催日:2014年9月20日~21日 開催場所:旧新城市菅守小学校及びその周辺のテレイン(愛知県新城市) →全会一致で後援が承認された。 (2)岩手大学・岩手県立大学大会 兼 第20回北海道・東北選手権大会 開催日:2014年10月26日 開催場所:岩手県北上市 →全会一致で後援が承認された。 (3)第19回京都大学・京都女子大学オリエンテーリング大会 開催日:2014年11月16日 開催場所:滋賀県日野町 →全会一致で後援が承認された。
	3.事務局会計について
	山川より、日本学連事務局経費(家賃・光熱費)の現状について説明があった。議論の結果、事務局の水道・電話の契約を終了することとなった。
山川	日本学連事務局と同居している、YMOE社の状況が変わるかもしれないと言っていたのだが、結局変わることはなかった。しかし、2年前から言っていた通り、今年から事務局家賃を5万円に値下げしたい。そして、住所と矢板に保管されていた備品の管理を家賃の範囲内できちんと行いたい。歴史的な都合があり、責任が重いので、家賃をもらいすぎているということはないと思う。あと、固定費、特に光熱費については手をつけたいが、私が忙しいためまだ処理できていない。7月中に何とかしたい。
山田	固定費とは、電話代と水道代・電気代のことか。
山川	その通りである。ただ、電気代は使わなくてもあまり高い金額にならないが、水道代は基本料が高いため、水道は止めたい。また、電話代は絶対無駄である。
齋藤	事務局の現在の使用実態はどうなっているのだろうか。
山川	私が仕事をすることがある。
齋藤	水道と電話を止めればよいのではないのだろうか。電気は何かあった時のために止めなくてもいいだろう。
山川	決議が通ったとした場合の(事務局会計)計算書はWeb上に出してあるのだが、会計の引き継ぎはしているのだろうか。また、去年の通帳の上でのお金の動きは把握することができるのだろうか。
山田	通帳はすでにすべて引き継いだ。自分の担当した分のお金の動きはわかっている。 →採決の結果、全会一致で事務局の水道と電話の契約を終了することとなった。
	4.会計について
	山田より、2013年度の決算案と2011年度2012年度の会計の現状について報告があった。前者については、会計監査を通し、10月開催の総会に提出されることとなった。また、後者については、目的のわからない支出については使途不明金として扱われることとなった。
山田	【2013年度決算案】 2013年度の決算の概要は、収入として、加盟金と賛助金と地図収入と事業収入があった。地図収入と加盟金がかかなり増えたので、大幅な黒字となった。 今年の予算案は、すでにできているが、加盟金を値下げするので、その分黒字を加盟員に還元できると思う。 決算案を監査に見てもらい、インカレロング前日の総会までに発表したい。
山田	【2011年度・2012年度会計決算について】 2011年度・2012年度の分の決算については、手が付けられなかったため、不明金のまま取り扱って、終わりにしたいと思う。
齋藤	ここで確認するが、(この議論の)前提として、2011年度・2012年度の日本学連会計が決算を発表していない(という現状がある)。(元会計とは)連絡も最近とれず、どうしようもない状況だ。

山田	通帳の明細はすべて出ていて、電話代などは記載された氏名を見ればわかるが、現金として引き出された金額をどうすべきが困っている。交通費などはわかったが、その合計は不明金に到底及ばない。本人がわからないものは私もわかるはずもないので、このまま不明金として取り扱い、活動報告書にその記述をして終わりにしたい。
齋藤	使途不明金はもうそのように処理するしかない。そして、今後このようなことが起こらないように、対策をしっかりとっていくしかない。また、活動報告書に残すにしても、誰がどのような形で何を残すのか、決めなくてはならない。この経緯も書くこととして、幹事長経験者にも(その報告を)書いてもらわないといけな。
佐藤	活動報告書はいつまでに提出だろうか。 インカレロング前には完成させたい。(印刷のことについて)まだ調べていないが、8月中までは入稿したい。
齋藤	(これに関する経緯を)6月中にはっきりさせ、(その原稿を)2週間くらいで構成をし、7月中には完成させたい。
山田	これからは、書式がないとお金を出さないようにしたい。交通費はもちろん、他の請求書についても、領収書を添付して出すようにしてほしい。
佐藤	そのようにしてほしい。
5.中九州四国学連について	
宇井より、広島大学が日本学連に再加盟することに伴い、中九四学連が復活することが報告された。	
宇井	中九四学連は山口大学が廃部になってから活動が途絶えていた。しかし、私がたまたま秋吉台のロケイニングに参加したところ、広島大学でオリエンテーリングを部員2人で復活させるという話を聞いた。学連登録をしたいということだったので、事務局にも連絡が来ていると思う。学連登録をした時点で、広島大学と中九四学連の両方が復活することとなる。
山川	復活させた学生の1人は、オリエンテーリングが全盛期だったころの学生オリエンティアの息子である。高校時代にメジャーのオリエンテーリング大会で表彰された経験がある。
宇井	なお、インカレロングの中九四学連の競技者配分はすでに他学連へ再配分されているため、本人の意向によっては、もう一度再配分が必要になるだろう。あと、中九四学連の代表として、幹事会に出席してもらいたい。最初は学連のことがよくわからないと思うので、オブザーバーという形で出席してもらえばいいと思う。
平野	中九四学連の競技者配分が復活すると、再配分されて増えた他学連のそれが減る、という認識でよいだろうか。
宇井	そういうことだ。
杉村	東北と東海が再配分されているので、枠が減る可能性が高い。ただ、もし1人だけ選手権に出場する場合、どちらの学連枠が減るのだろうか。
齋藤	それは、大西・技術委員長に任せるところだ。
6.JOA加盟について	
宇井より、JOA理事会によって日本学連のJOA加盟が認められたことが報告された。	
宇井	JOA理事会で日本学連のJOA加盟が正式に承認された。
齋藤	具体的な支出として、まず加盟金でどのくらいかかるのか。
宇井	加盟金として50万円、さらに年会費として10万円がかかる。
齋藤	確認だが、学連加盟をすると自動的に都道府県協会に競技者登録され、学連加盟費以外に競技者登録費はかからない、ということでのよいのだろうか。
宇井	その通りだ。
野本	日本学連のJOA加盟によって、これまで(競技者登録費として)都道府県協会に入っていたお金が入らなくなるという話だったが、どうなったのか。
宇井	財政的に厳しいので何とかしていこうということだったが、まだ具体的な案は出ていない。
齋藤	これまで開催してきた、日本学連とJOAとの連絡協議会は続けていくのか。
佐藤	去年はあまりそういう話は出ていなかった。
齋藤	2者が連携していくために、4年前に私が日本学連幹事長だったときに始めたものだが、学生が「意義がある」と思うのならば、続けてはどうだろうか。
7.理事改選について	
齋藤より、日本学連理事の退任と新任について報告があった。総会での議決が必要なため、翌日の臨時総会の議題に追加されることとなった。	
齋藤	昨年度末から4月にかけて、理事の退任と新任について、土方理事を通して連絡があった。ちょうど臨時総会を明日開催するので、その議題に加えてほしい。 ○退任・新任の理事は以下の通り。(敬称略) 【退任】(2) 山口 尚宏(筑波大卒)、小林 知彦(名古屋大卒) 【新任】(3) 海老 成直(中央大卒)、高橋 元気、田村 直登(以上、東北大卒)

齋藤 野本 齋藤	新しい理事についてはこれからその担当が決まっていくことになる。 退任した理事は何を担当していたのか。 小林理事の担当はなかった。また、山口理事は、テレインコントローラー担当だったが、今はインカレ担当理事がその仕事のほとんどを行っている。
野本 齋藤	理事会の活動実態はどうなっているのか。 個々の仕事がメインなので、理事会として全員が集まることはほぼない。メール上のやり取りはしているが、理事会自体は年1回程度の開催である。
宇井	明日の総会で承認を取りたい。
8.インカレミドルの方式について	
インカレミドルの開催方式について、その経緯が齋藤より説明された。また、大西より、今後の在り方について、意見があり、次回以降の幹事会で議論していくこととなった。	
齋藤	かつては予選・決勝方式であったが、2009年度から今の方式となった。運営の負担が大きいという理由で、現在の方式になった。 ミドルの方式として重要な検討課題がいくつかある。まずB-finalの在り方である。かつての方式(予選決勝方式)では、各地区でのセレのハードルが低く、新入生でも通るものだった。セレに向けて頑張っている新入生がいて、それをいきなりなくすことはできなかった(ため、B-finalがつけられた)。あと、A-finalに残る人数についてである。もともとは40人だったが、「それでは少ないが、ロングほどの人数はいらない」という理由で、今の方式では50人とした。予選・決勝方式を知っている人たちがいたことによる経過措置という部分があったと思うので、今の学生が運営側と話し合いながら、やりたいようにすればよいと思う。アンケートをとるが、幹事の発言力は大きいので、次回幹事会までにこのことについて考えてきてほしい。
山川	基本的に幹事会で変えてよい事項である。 →大西到着後、技術委員会報告とまとめて議論することとなった。
大西	(議論再開) 前回幹事会の議事録では、「ミドルの方式の在り方について、アンケートを取る」と発言したことになるが、忙しくてそれができなかった。詳しいことは技術委員会報告の資料に書いた。 まだ意見を集めていないが、今の私の意見としては、女子選手権Aの出場人数(20人)が少ない気がする。そもそも女子の人数は少ないので、2クラス制にしている意味があるのか、疑問に感じている。4年前に、それまでの予選決勝方式から今の方式となったが、当時は運営の負担の軽減が目的だった。その時に、2クラス制が採用されたが、その理由は、中堅層のモチベーションの維持だった。私が思うに、中堅層のモチベーションの維持を図るなら、一般の部に上位クラスを設けて複数クラス化するのがよいと思う。(今のシステムでは)B決勝の出走者はA決勝のスタート前に走り終わってしまうので、どっちつかずである。 また、かつては、学生からの要望によりA決勝とB決勝は同じコースを走ったが、優勝設定時間を合わせるために、少しコースを変えるようになり、ついに昨年度は全く違うコースとなった。(これから)そのようにしていくのなら、名前を変えていくべきだと思う。また、エリートの出場人数を増やし、一般クラスも工夫していければ、みんなのモチベーションを維持したまま、真新しい方式を作っていくことができると思う。(各大学へ)アンケートを取り、今年度は厳しいかもしれないが、納得できる形で(ミドルの実施規則を)改正していきたい。
9.学連登録資格について	
佐藤より、大学院生の日本学連加盟登録についての規則改定の提起があった。この件については、これから周知・議論していくこととなった。	
佐藤	加盟員資格についてだが、大学院生を認めることはできないだろうか。現在の規則では認められていないが、2年生から競技を始める人も多いので、連続で4年間加盟員として認めることにしてもいいのではないだろうか。ユニバーに出られるのに、インカレに出場できないのは、どうなのかなと思う。
野本	(大学院生も)学生なのだから、認めてもよいと思う。
山川	これも学生で決めていい事項である。
佐藤	加盟に関する規則第2条によると、「加盟員となる資格を持つのは、(中略)大学、短期大学、高等専門学校(4・5年)に正規生として学籍を有する者で、大学院学生、専攻科学生、あるいは聴講生、研究生などの非正規生を除く」となっている。大学院学生は非正規生ではないので、その部分は消してしまえばよいと思う。「この規則の改正は、総会の議決による」とあるので、明日の総会の議題に追加すればよいと思う。
高橋	専攻科学生というのは、どういう学生のことだろうか。 もしかしたら、高専を卒業し、そのまま高専専攻科に入学した人を念頭にしたのかもしれないが、これを書いた人の意図がそうなのかわからない。
佐藤 齋藤	そうだったならば、専攻科学生も大学院生と同じ扱いとしていいと思う。 急ぐ話ではないので、インカレロングのときの総会で議論してもよいのではないだろうか。 →明日の総会で周知し、これから議論していくこととした。
10.地図会計について	
齋藤・山川より、地図会計の現状について報告があった。	

齋藤	3月に承認された地図規約では、事務的なことを会計が扱うことになっているが、今回の幹事会を大久保・会計が欠席しているので、次の幹事会でしっかり打ち合わせればよいと思う。周知しないといけないので、このことをいぶきに書いておいてほしい。
山川	また、地図指定管理業者との契約の在り方について1年間議論していかなくてはならない。次回幹事会までに、案を作っておきたい。
齋藤	前回幹事会で確認した通り、初回なので見本となるような書式を作るつもりだったが、後追いとなった。あと、会計報告の中でできたのが、日光トレイン維持管理作業と、「日光愛宕山」と「不動の滝(南)」の地図接合作業である。これらは新規則成立前の事業なので本来ならば書式は必要ないが、見本を示すために作成した。できなかった事業は「矢板塩田」改定作業と矢板トレイン維持管理作業であり、(昨年度からの)継続作業として、幹事会決済枠である20万円以内で予算を組み、書類を提出し直したい。
齋藤	なお、日光トレイン維持管理作業では、「日光和泉」、「例幣使街道」、「日光所野」の修正を行った。この報告書をあとでつけたい。
齋藤	地図作成業者には、面積あたりで料金を払っているのか。
山川	2012年度のインカレミドルでの地図管理上の反省として、そのようにしている。
齋藤	お金を支払うのならば、経費を含めて単価設定すべきなのではないだろうか。経費を実費で請求するのならば、明細をすべて出し、透明性がないといけない。単価を高め設定し、そこに経費を含めてしまえばよいのではないだろうか。
山川	その方が、納得しやすい。そうしよう。
齋藤	地図代は初回使用時700円、2回目以降350円となっているが、基本的にはどちらもそのうち150円が手数料として山川さんに行き、残りが学連の利益となっている。例えば、これを見ると、5年間で経費を回収するとした場合、初回大会で450枚売り上げたとすれば、学連には24万7500円、その後の合宿で年間450人が使用したとすれば、年間9万円の利益が出ることになる。合計で70万円くらいは利益が出ることになる。必ず幹事会を通すこととなるので、事業の必要性を判断するのは、この場となる。
山川	事業そのものに意義があるので、将来の売り上げがない場合でもやった方がよいと思う。うまくお金を回して欲しい。
齋藤	5年間で採算が取れないくらいのお金を支払うので、プロの方にもしっかり地図調査をしていただきたい。
11.各部局活動報告	
<ul style="list-style-type: none"> ●会計:(欠席のため省略) ●事業部: 第1回幹事会のとりまとめ・春インカレアンケート集計 ●広報部: いぶき作成、日本学連渉外メーリス登録、ホームページ・Twitter更新、活動報告書の準備(作成委員長が決まるまで) ●事務局: YMOE社を通した地図販売受付、賛助会員受付、後援申請受付、加盟登録関連 ●普及部: インカレ観戦ガイドの販売、賛助会員の募集・名簿作成 ●渉外部: 日光所野・矢板挨拶回り 	
平野	<p>【事業部】 宿のサービスについては、ほとんどの加盟校が「満足」「許容範囲」という回答であったが、一部の宿にミーティングができる部屋がなかったこと、バス輸送にトラブルがあったことが指摘されている。今年度のインカレではそういうことのないように、実行委員会と日本旅行(代理店)にお願いをしたい。</p> <p>また、宿泊地区によって、料金に違いがあったが、「その差は宿泊料金のみなのか、それとも(バス)輸送費も含めた差なのか」という質問があった。この点についても、今後そういうことがあればしっかり説明してもらえるようにしたい。</p> <p>インカレの参加費について、加盟員への意識を調べるためにアンケートを取った。その結果、それが高いと考えている人は約40%いたが、インカレ会計報告を見たことのない人が90%もいた。もっとインカレの会計報告が目につくようなところにあればいいと思う。</p> <p>アンケートの母数がインカレ参加者に比べて少ない気がする。</p> <p>大学の渉外の名前で回答があったうえ、その大学内のミーティングに出た人数で集計している。</p>
齋藤	
平野	
宇井	<p>【広報部】 いぶきは今年度どのくらい発行する予定だろうか。</p> <p>年3回の予定である。</p> <p>(15時5分 大西 到着)</p>
高橋	
途中休憩: 15時8分～15時20分	
12.インカレスプリントについて	
<p>インカレスプリントについて、山川より、その構想について説明があり、今年度「第1回インカレスプリント」の開催を目指すことが示された。しかし、準備不足・議論不足の懸念があったため、今年度は試行大会を開催することとなった。また、その競技者配分については、昨年度の加盟員数を基に計算することとし、出場選手の選考は各地区学連が行うこととなった。</p> <p>なお、インカレスプリントについては、各加盟校で持ち帰って議論し、来年度以降の開催については、今年度中に結論を出すこととなった。</p>	

- 山川 なぜ4年前に否決されたのかは僕自身もわかっている。今総会で採決をとっても否決されるだろうと思うが、それでは組織の責任が果たせない。
4年前も激しい議論があった。「参加者が集まらない」という採算性の問題があり、その解決策として、インカレを全日本大会と同時開催する案があったが、結局否決された。その後は、全日本スプリントに学生の部を設けるなどして相乗りしたが、参加者が集まらず、うまくいかなかった。
去年の議論でもあったが、インカレを開催するからには、学生が主役であるべきだから、全日本大会に相乗りするという選択肢はない。本当にスプリントができる人は少ない。予算は別のところから工面すればよい。
スプリントは世界大会に3人出場することができるが、足が速くなければできない、若者の種目であるから、そのインカレがないのはおかしい。
しかし、1年間に行事がたくさんありスケジュール的にきつい。インカレだけでもロング・ミドル・リレーがあり、さらに、ロングセレ・ミドルセレもある。
私も本業はインカレの地図調査である。インカレスプリント実験大会の準備は、時間がなかったうえ、大雪の影響でインカレの方の調査自体が遅れたので、結局、準備不足で本番の運営がバタバタになってしまった。
- 大西 山川さんの言っていることは実情とずれていると思う。4年前に否決されたのは、スプリント単独でのインカレを開催するのは遠征する人があまりいないので無理だという理由でだと思う。今回の場合は、ロングと同時に開催するのでみんな来るだろうという話だと思う。僕が感じているのは、インカレスプリントの開催自体に否定的な意見を持つ人は多分いないが、3月の実験大会の運営に不満を持つ人や、セレクションなどの実務面について不安に感じている人はたくさんいる。また、ロング前日の開催だとスプリントへの参加を回避したい人も少数いるだろう。
学生側は、「開催してくれるのならそうしてほしい」という気持ちである。しかし、OBが運営してくれるのかなどといった、実際の運営上の問題点の解決が継続していくうえで必要だと思う。
- 齋藤 4年前に否決した1番の理由は、当時、世界大会の環境が今ほど変化していなかったことと、継続性がなかったことがあると、私は認識している。
- 大西 全日本と同時開催するのはもう無理である。ミドルやロング・リレーは学生が皆行くので、そこと合わせて開催するしかないと思う。そうしたときに、どうしていくかを議論していかなくてはいけない。
- 山川 ある程度進め方が決まっていなくて採決を取れない。現状のままだと、毎年継続して運営していくことができない。
- 齋藤 運営主体はロング実行委員会なのか、それとも別組織なのかという点も重要な課題である。
- 大西 ロング自体はそんなに大人数での運営ではないので、ハードルが高い。
- 大西 スプリントの運営はあまり人数がいらないかもしれない、という話でOBを集める。
- 山川 なんとかして継続性のあるものにしたいと思って発案している。
- 大西 ただ、いまそこまで細かい議論をする必要があるだろうか。正式に立ち上げるかどうかの議論をするよりも、個人の意見を言ってもらった方がいいと思う。
- 糸井川 関西学連ではインカレスプリント開催に好意的な人が多い。しかし、やるからにはインカレとして機能すべきであり、見切り発車することには慎重派が多い。運営やセレクション方法などの見通しと議論する時間がないと判断しづらい。どんどん推し進められてしまった末、あとで困るのは自分たちなのではないだろうか、という不安を持っている人は多いと思う。
- 平野 名古屋大でもミーティングで話し合ったが、報告書の公表が遅れて、話し合いにならなかった。正式に立ち上げる前に、もう少しクラブ内で話し合う時間がみんなは欲しいと思う。
- 宇井 議論ができないという理由で、棄権するという大学もある。部員全員の賛成がないと涉外として意見が言えないという人もいる。しかし、今年立ち上げるには、今回の幹事会で議決を取る必要がある。
- 山川 議論が不十分なことはわかっているが、それに対する意見を聞き入れる体制を作ったうえで、正式に立ち上げるという議決を取りたい。
- 齋藤 やることには反対ではないが、規約を急いで整備して今年開催することには、非常に疑問がある。
- 宇井 やる方向だけ決めて1年間議論すればいいと思う。
4回生の中には、出場のチャンスは今年が最後なので、せっかく福井でやってくれるのなら、ぜひしてほしいという意見が出ている。今さらだが、時間ももっとあれば話を詰めることができただろうと思う。
- 糸井川 各校がすでに議論を終えている段階で新たな情報が入ってきているので、それを見て話をする時間がない。継続的に開催していくことを視野に入れているので、今年から立ち上げるかどうかという話ではないのでは、という声があった。
- 山川 時間のない中みんなやっているのだから、そこを批判されても仕方ない。
- 佐藤 ただ、他と兼任していて忙しいから、という理由をつけてしまうと、結局運営者が集まらず、開催できない。
- 齋藤 その言い訳をしてしまうと、継続性に疑問が出てきてしまう。実験大会は演出ができておらず、イメージがよくないので、もっといいものを見ないとイメージがわかないと思う。もう1回試行大会を行った方が、議論が深まると思う。
- 山川 議論して変えるところは変えて、正式なインカレスプリント実行委員会を立ち上げたいと思っている。
- 齋藤 (正式な実行委員会ではなく)準備委員会という形でもいいのではないだろうか。そうすれば、インカレという名前がつかなくても、意味のある大会になると思う。
- 糸井川 昨年度の実験大会を第1回インカレスプリントとすることには、多くの大学が賛同しないと思う。
- 佐藤 今年も実験大会という形で開催することには問題はないと思う。ただし、実験大会という形ではこれで最後になるだろう。ここでうまく運営しないと、次回以降開催するのが困難になると思う。ロングでの実験大会での成功の度合いで、本大会の開催が決まると思う。

宇井 山川	試行大会を踏まえて、実施規則の整備をしてから正式な大会を開催してもよいと思う。 去年と今年の違いがいくつかある。去年は(私が実行委員会に)気を遣って隙間を縫って準備したが、今回は運営者が皆やる気になっていて、うまくロングに組み入れようとしている。また、(3月の実験大会のように)ミドル前日のモデルイベントの隙間に開催するのには無理があったが、今年はそれほどきつはならないと思う。
大西 山川	また、スプリント運営に加わった、ミドルリレーの運営者はほとんどいなかった。山川さんとの間の話し合いで、実行委員会からは運営者を出さない、という形になった。 こういうことは今後もあり得る。そんなときはプロの力を借りないといけない。
大西	あと、これ以上地区セレクションを増やしたところで、地区学連は大丈夫なのかという問題もある。 地区セレを増やすというよりは、地区学連にどうやって決めてもらうかが問題になると思う。その例として、大会を選考レースにする方法がある。その方が不満が残らないと思う。今のバラバラな基準をクリアして推薦された人を技術委員会で落とすということは不可能に近い。
山川 齋藤	競技の特性上、すぐ成り上がってほしい。足が速いだけでもいい。 今の状態の議論のままではインカレスプリントは成立しないと思う。10月に行う大会の位置づけを決めたほうがよい。学生にやる気はあるのだから、1年間議論したほうがよいと思う。実験大会は2回あってもいいと思う。将来につながればいいのだと思う。
大西	継続性を示せという話だったが、それはみんなで作り上げていくものだ。どうしていくかは話し合っていないといけない。
山川 齋藤	個人的には、開催時期は、ロングは運営者がきついので、ミドル・リレーの方がよいと思う。 3つ同時に開催するのは参加者としても厳しいのではないだろうか。 インカレは、学生が作っていくものだ。学生の要望を実行委員会とすり合わせていく仕組みを作ったほうがよい。2010年度ごろの春インカレ(日光)では、意見交換会を頻繁に行っていた。どこまで学生の気持ち・要望を集められるかが大事だと思う。それを半年間で本気でやらないといけない。
佐藤 大西 佐藤	ロングの運営者数は増やせないだろうか。 開催地によって左右されるので、確実にできるという保証はない。 プランや運営の細かい点については、インカレ運営者が担い、若いOBが人数の必要なところに運営に入ればよいだろうか。
大西	最近では運営者の人数が増えているので、今のところそのような問題は起こらないだろう。なんとか運営者が集まると思う。
宇井 齋藤 大西	正式に立ち上げたあとは、初めのうちは声をかけて集めるしかないと思う。 あと、観戦の面白さをどれだけ伝えられるかどうかも重要だと思う。 あと、予選・決勝方式は時間的に無理である。海外の大会でよくあることだが、スタート後にフリースタート方式で選手と同じコースを走れるようにすれば、観戦者も面白いと思う。あるいは一般クラスのあとに、選手権クラスを出走させてもよい。全員参加型のイベントにすれば、みんなエリートの走りを見られると思う。
山川	あと、資料にも書いているが、運営側の打ち合わせが不十分だった。テープが巻き切れず、テープがないところに選手が集中した。
大西	それに、スプリントが町の中でできないというのはつらい。 最近の傾向として、複雑なルートチョイス・通過禁止の表記で簡単なアタックだが、3通りくらいのルートがあり、それが選手を悩ませる、というような世界の基準がある。いかに地図を早く読み、走るのが重要である。しかし日本は、いまだに、ベストルートを探して走るというスタイルである。
山川 齋藤	スポーツ組織として、学連はスプリントを普及させることにきちんと取り組むべきである。 取り組むことにはだれも異論はない。明日の総会で採決を取るのには早急である。本大会で失敗すると継続しにくい。
野本	第1回はきちんとやったほうがよい。インカレに傷がつくのはもったいない。ミドル・リレーのブランドも落とすしてしまう。
系井川 齋藤	仕組みを決めるための開催ならば、そこに第1回という名前を付ける意味はないと思う。 第1回の実験大会は、意義はあったが、はっきり言って失敗している。実験に成功して初めて本大会を開催すべきだと思う。
五味	ロングと同じ時期に開催するのにもかかわらず、今の時点で、選出方法などが決まっていけないとなると、正式な実施規則で選手が選出されていない状態で、正式に立ち上げても、みんなが納得できるかわからない。それよりも、方式を示したほうが、来年につながると思う。
大西	今年は本大会の開催は厳しいと思う。ただ、いずれにせよ、セレクションのあり方を10月の試行大会までに決めないといけない。
齋藤	試行大会とするならば、その成功例を見せればよいので、選手の選出方法は流動的でよいと思う。1年間議論して決めればよいことである。
佐藤	ただ、出場人数の配分などについて、ある程度の流れは決めておかなければ1年間で決められない。
大西	(選出方法について)他に案があれば、アンケートを取るなどして、拾いあげてほしい。これは多数決で決めることではない。
齋藤 宇井	それは結局学生が決めることだが、ロングやミドルと同じように選出する必要はない。 個人的には、来年度以降は枠を振り振ればよいと思うが、もし今年その方式で選手を出すとなると、地区学連に負担がいつてしまう。
大西	セレを開く時間が厳しいとして、過去の大会の成績を基に決める場合でも、技術委員会で決めるのと地区学連で決めるのには、大きな違いがある。
杉村	どうせ来年度以降も地区学連で決めるのなら、今年もそれでよいと思う。選考方法は地区学連内で話し合ってもらえばいいと思う。

佐藤 スプリントなら準備ができる気がする。最悪の場合は話し合いで決めることになるだろう。地区学連の方が動きやすい。

大西 全国単位で選出するとなると、その結果に不満が残る結果になりかねない。

宇井 地区学連幹事長が大丈夫というのならば、地区学連で選出すればいいと思うが、決まりがないから間に合わないと言われるとつらい。

山田 出場人数は何を基準に各地区学連へ割り振るのか。

大西 学連枠にプラスしてそれぞれの加盟員数に応じて配分するか、そのまま加盟員数で割り振ることになるだろう。第1回大会は実績がないので、後者にすれば平等であると思う。

山川 (来年度第1回大会が開催される場合、) 今回の試行大会を実績として扱ってもよいのではないだろうか。

齋藤 それは学生が決めることである。

佐藤 関東学連でもできそう。各大学の渉外に希望を取ってもらおうか。

村瀬 やるとするなら、選考レースをつくる方法、あるいは、書面で希望を募る方法が考えられる。

佐藤 希望を募り、人数が多かったら選考レースをすればよいのではないだろうか。

村瀬 選考レースの方が、順位がしっかり決まるのでいいと思う。

宇井 他の学連はどうだろうか。

今井 東海学連は、加盟員数は多いが、加盟校が少ない。女子はほぼ相山女学園大だけなので、その中で話し合いとなるだろう。男子も大学ごとに割り振るのがいいのだろう。

杉村 北東は(地理的に)話し合うのが大変だ。推薦で決めるという形が現実的だと思う。

久須美 北信越の場合は、ちょうどいい時期にスプリントの大会がないので、交流会や合同合宿で選考レースを行うか、話し合いをするしかないと思う。

宇井 基本的に出たい人が出るべきである。自己推薦がメインになってくると思うが、その辺りも地区学連で決めてくれたらよいと思う。

村瀬 関東は人数が読み切れない。

山田 もし、希望する人が選考レース開催日にすでに予定を入れていてレースに出れなかった場合、どうするのか議論になる。

村瀬 少なくとも今年は、今から選考レースの開催を考えるのは関東だと厳しい。推薦についての話も分かるが、文章で判断するのも、公平性の面から無理である。

齋藤 大学ごとに人数を振り分け、そこで出場者を決めたらどうか。

宇井 必要なら、選考レースをすればよいと思う。

大西 いずれにせよ、学連で選考しても、技術委員会で決めても、スプリントの大会での成績が選考材料となる。

宇井 それならば、学連で決めてもらった方がいいだろう。

村瀬 ただ、その場合、学生で決めることになるので、選考時の公平性が問題になる。

齋藤 仕方がない。異論があるのなら、対案を出してほしいところである。幹事長には最終的な判断をする権限がある。

山川 あと、インカレスプリントを継続して開催するには、そのための予算が必要である。今までの予算額でよいだろうか。幹事会決済枠(20万円)で地図調査と運営それぞれについて、予算を付けてほしい。

佐藤 予算額20万円でスプリントの大会は運営できるのだろうか。

山川 大丈夫だ。西村氏(NishiPro)とも相談したが、依頼されればプロが調査を行う。

大西 学生がみんな走るようにすれば、予算的には大丈夫だろう。走りたい人数がわかっているれば、地図を事前に印刷することができる。

山川 スプリントについての予算がつけば、福井ロングの運営側も助かる。

齋藤 参加費を徴収して、赤字が出たら補てんするという形の方がいいと思う。

山川 そのようにしようと考えている。前は参加費は無料であったが、今回は少し徴収しようと思う。ただ、参加費収入だけでは大会は運営できない。4年前は参加費収入だけで大会を運営するために全日本大会と一緒に開催することとなったが、失敗した。

大西 一般の部も含めて、インカレロングレベルの参加者数が集まれば、経費は参加費からなんとか捻出できると思う。

齋藤 まだ実験なので、幹事会決済枠から無条件に20万円支出するより、赤字が出たときにそれを学連の予算で補てんする方が現実的である。前回幹事会決済で支出した経費はうまく形にならなかったし、結局、会計的にどうなるのかは、開催してみないと誰もわからない。

山川 ただ、スプリントとロングの運営者は同じなので、スプリント単体の会計を細かく出すことができない。

齋藤 いや、それは出してもらわないといけない。

大西 スプリントの地図調査は40万円はかからないだろう。

山川 山上・実行委員長の試算では25万円かかると見込まれている。

齋藤 ロングとスプリントの運営者を兼ねるのなら、交通費はロングの費用で間に合ってしまうのではないだろうか。参加者増加に伴って、参加費収入も増えている。あと、個人的には地図規約に則ってインカレの地図も作成すべきだと思う。スプリントの参加費はどのくらい徴収するつもりなのか。

山川 1000円くらいの予定である。

齋藤 仮にエリートの参加費が3000円だとすると、90人出場するとそれだけで27万円集まる。さらに、地図代1000円として、一般の参加者が100人いれば、参加費として合計37万円の収入がある。

大西 スプリントの地図は山の地図より作りやすいだろうし、他の参加者がいるのならば、エリートの参加費が3000円以下でも、採算が取れると思う。例えば、全日本リレーの前日にスプリント大会を開催した場合、10万円くらいの黒字が出ている。ただ、エリートだけしか走らないようにしてしまうと、採算的には厳しいだろう。

齋藤	無条件に40万円出すのは、個人的に無理だ。しっかりした明細が出されて、補てんが行われるのなら、誰も文句は言わないと思う。
山田	前回、参加費無料で商品が豪華だったにも関わらず、出場希望者はセレクションが行われるほどの人数が集まらなかった。はたしてそんなに参加者が集まるのだろうか。私のクラブでは、「縮尺の違いにすぐ対応できるのなら出てもいい」という話が監督からあった。
齋藤	結局やってみないとわからない。
山川	スプリントは参加費ベースで考えると失敗する。うまく仕組みを考えないといけないがその議論をされると厳しい。
齋藤	絶対黒字で開催しろとは言っていない。赤字は補てんすると言っている。
山川	スプリントと別に明細を出し、赤字を補てんするという前提を実行委員会に伝えなくてはいけない。大会の継続を考えるうえで、予算についての要件である。
齋藤	予算案や構想が出ていないので、結局、我々は何もわからない。我々のイメージは前回の実験大会のものしかない。同じ煮の轍を踏みたたくはない。
大西	いろんな工夫をすれば、手を打つことはできると思う。
宇井	どれくらい赤字になるのかわからないのに、全日本スプリントと比較するのはおかしいと思うので、やってみないとわからないと思う。
山川	赤字が出たときに幹事会の責任にされてしまうのではないだろうか。
大西	何の考えもないのに赤字を出すのはまずいが、予算を考えて開催したのに赤字が出た場合は仕方ない。
齋藤	最終的には、毎年赤字がどのくらい出るが、インカレスプリント開催を続けるか、という判断を総会の場ですることになると思う。とりあえず赤字が出て事業を続けるしかない。形が出てこないとも何もわからない。
佐藤	赤字が出て、それが次回以降の開催を考える上の信頼できるデータとなり、参加費を決める材料などとなる。
齋藤	それでは、赤字が20万円以内ならば補てんし、20万円以上ならば予算まですべて見せる、という条件付きの議決をしたらどうか。
宇井	やってみて、赤字を補てんし、今後の在り方を考えるということではよいか。
山川	なお、開催予定地は旧マップが存在するが、JSSOM規格ではないので、地図は実質最初から作り直しとなる。
糸井川	結局予算は提示してもらおうのか。
宇井	スプリントでも提示してもらえたら、そういう方がよい。
佐藤	予算を実行委員会に出してもらえようようにお願いしよう。あと、スプリントで赤字が出た場合、20万円以内ならば幹事会決議、それ以上ならば明細を出してもらい総会決議で補てんしようか。
大西	明日の総会では、この議論の流れ(試行大会になること、地区学連で話し合うこと)を幹事長に説明してもらいたい。インカレスプリントについては試行大会なので、総会の議決はいらぬ。
山川	試行大会はこれが最後とすること、前回の試行大会から様々な反省材料を得たことということも報告すべきだと思う。
齋藤	あと、これから発行される、(大会全体について総括した)試行大会の報告書を踏まえて、学生から知恵を拾い上げるスキームも考えるべきだ。
山川	今回発行した報告書は総会向けなので、インカレスプリントの開催の是非についてのみ焦点を当てて書いたが、今度は大会自体の報告書を書く。
齋藤	それが発行された後、各大学で話し合い、事業部長の作成したフォーマットに記入してもらおうことになるだろう。
山川	あと、今回はモチベーションを高める意図で豪華な賞品を用意したが、今回は賞品を豪華にしないでいきたい。
宇井	それでは採決を取りたい。
山川	スプリントの予算と決算をそれぞれロングとは切り離したものを実行委員会に提出させるということではよいか。その場合、交通費や宿泊費はどうなるのか。
大西	スプリントの準備に行ったときはスプリントの経費、ロングの準備に行ったときはロングの経費とすればよいだろう。
齋藤	あと、スプリント当日の交通費はロングの経費とすべきだろう。
山川	それに、宿泊費はスプリントがなくてもかかるものなので、ロングの経費となるだろう。
大西	実行委員会と相談が必要だと思う。
山川	この先スプリント単独でのインカレ開催を考えないとすると、会計が一緒になってしまった場合となっても、無理矢理やることになるかもしれない。
齋藤	「まずはインカレロングと一緒に開催してみよう」というのが話の前提なので、それ以上議論すると切りがなくなる。
大西	宿泊費の半額をスプリントの経費としても採算が合うような形での開催が望ましい。
宇井	それでは、「スプリントとロングをそれぞれ別々の会計とし、試行大会開催に伴う赤字が20万円以内ならば学連会計から補てんする」ということについて議決をしたい。 →全会一致で承認された。
宇井	明日の総会では、インカレスプリントを試行大会として開催すること、各地区に出場枠を振り分け、出場選手については地区学連で決めてもらうこと、それに後ほど各加盟校の意見を集約するフォームを配布することについて報告したい。
五味	出場枠の全体の人数は、いつ決まるのか。

大西	男子60人女子30人としたい。山上・実行委員長と相談したが、これがぎりぎりの人数であるとのことだった。枠は昨年度の加盟員数で割り振るのがよいと思う。
五味	人数や決勝の時間などは、実行委員会が決めたものに学生が従えばよいだろうか。
大西	それでよいと思う。
村瀬	新入生の学連加盟の締め切りは例年8月1日である。加盟員数を基に出場枠を割り振るなら、その後今年度の加盟員数の集計をしなければならぬので、スケジュール的に厳しいのではないだろうか。
大西	8月までは待てないので、昨年度の加盟員数を基にすればよいと思う。
佐藤	試行大会なので、仕方がない。
五味	個人的には、ミドルの学連枠も考慮してもらいたい。
大西	試行大会なのである程度は我慢してもらえないかと思う。
杉村	もし試行大会の後、インカレスプリントを開催する場合、出場枠の配分は試行大会の成績を考慮させるのだろうか。
大西	あくまでも試行大会なので、反映させなくてよい。
齋藤	その辺りについては、1年間議論していけばいいと思う。
13.技術委員会報告	
大西より、世界大学選手権(WUOC2014、ユニバー)、学連合宿、インカレ、リテラメッド社協賛遠征費補助制度について報告があった。	
山川	【WUOC2014】 世界大学選手権(以下、ユニバー)の出場選手が決定した。2年前は女子選手を4人しか出せなかったが、今年はなんとか6人ずつ出すことができた。学連の代表として派遣するので、ぜひ応援してほしい。
大西	予算は現在どのような状況になっているのか。 前回幹事会でユニバーへの補助を次回から30万円に増やした。増額分は選手の方に回していきたい。
大西	【学連合宿について】 ユニバー合宿と兼ねて第1回日本学連合宿を行う。7月12～13日に八ヶ岳で開催する。要項を見てもらえばわかるが、前回幹事会で「もっとユニバーのことを扱えば、みんなが興味を持つのではないのか」という声があったので、ユニバーの紹介をしようと考えている。また、ユニバー選手もいるのでチェコの地図対策をしたいし、WOCリレーの当日なので、ネット環境が良ければ、一緒に観戦したい。 第2回については、9月の開催を考えていたのだが、日程的に厳しいので、8月末ごろの開催としたい。ASOC合宿と併催する方向で話が進んでいる。ここでは、新入生向けのメニューを用意したい。
大西	【インカレロングイベントアドバイザー】 ロングのイベントアドバイザーが小林力(つとむ)氏(金沢大OB)に決定した。
大西	【インカレスプリントに関して】 技術委員会の案があるということだけ承知してほしい。試行大会なので、開催後に規約などの議論をしたい。 他にも、コントロールカードに関する事項など、時代にそぐわない部分の修正をしたので、軽く目を通してほしい。
山川	スプリントは今も進化中の種目なので、その規約に加えて、ガイドラインを作らないといけないうらう。
大西	【リテラメッド社協賛遠征費補助制度について】 オーリンゲンアカデミーへの参加費補助を目的に始まった制度で、世界選手権についても補助対象である。これまではJOAの事業で選考のみ技術委員会が担当していたが、今年度からは学連で主導することとなった。
14.理事会報告	
(省略)	
15.各地区学連活動報告	
●北東学連:学連総会(3月7日(前年度分)・6月1日)・ロングセレ(東大会・6月1日)	
●関東学連:関東学連総会(第1回:4月3日、臨時総会:5月14日)、ペアO(5月15日)、ロングセレ(6月15日)	
●北信越学連:学連総会(前年度第5回:3月10日)、j金沢大学大会(3月30日)、ロングセレ(東大会・6月1日)	
●東海学連:学連総会(前年度:3月14日)、ペアO(5月25日)、東海インカレ(6月29日)	
●関西学連:女子対抗戦(3月27日)、学連新歓・第1回学連総会・機関紙発行(4月20日)、第1回定例戦(5月11日)、新歓合宿(5月17～18日)、ロングセレ(6月15日)	
【関東学連】	

村瀬	臨時総会で関東学連のミドルセレ推薦規約における判断主体について議論した。その結果、これまで通り、関東学連を判断主体とすることとなった。
系井川	【関西学連】 関西学連でも、ミドルセレ推薦規約改正について議論をしている。場合によっては、ロングの方も変わる可能性がある。 なお、立命館大が昨年度末をもって廃部となり、加盟校が減った。しかし、新入生の競技者が入ってきたので、準加盟校として復活する予定である。新歓は順調である。
	16.次回幹事会について
宇井	●開催日:9月14日(7人リレー開催日後夜) ●開催地:蓼科高原(7人リレー開催地)周辺
	幹事会終了:17時50分